



荒川区西日暮里2-55-1
国鉄労組東京地方本部
発行責任者 鎌田博一
編集責任者 常盤達雄

No.1823
2018年
10月5日

国労加入を
大胆に訴えよう

第69回地方大会開かれる 組織拡大へ全力を!

東京地方本部は九月一五日九時三〇分から発明会館において、第六九回定期地方大会を開催した。

大会議長には森代議員(上野支部)、副議長には小助川代議員(新橋支部)を選出し、大会が始まり、続く委員長あいさつで鎌田委員長は、組織強化・拡大、安全・安定輸送、労働条件の改善、政治や民主主義、労働法制や平和の問題を中心にあいさつを行った。(別掲参照)

来賓には東京交運労協・高橋議長をはじめ、多くの方が見えられ、平和と民主主義の問題や、政治的課題などさまざまな連帯のあいさつがされた。上部機関からも、国労本部、東日本本部から多くの役員が見えられ、代表し国労東日本本部大沼委員長から、東日本本部の取り組みや、今後の国労運動の考えなどが報告された。国労東京議員団からは三名が来賓に見え、代表して



- 永年勤続表彰受賞のみなさん**
- 小池敏哉さん 大井工場支部
 - 中澤和夫さん 大宮地区本部
 - 斎藤 薫さん 新橋支部
 - 服部 清さん 神奈川地区本部
 - 斎藤資行さん 大宮地区本部
 - 海老原悟さん 新橋支部
 - 笠井広行さん 新橋支部
 - 唐澤富雄さん 自動車支部

その後、経過に対する質疑が四名の代議員から、方針に対する討論が一五名の代議員からされ、それぞれ、組織拡大や職場労働条件改善に関する取り組みや、平和運動などさまざまな取り組みや上部機関に対する要望などが報告された。続い

- 来賓で来られたみなさん**
- 東京交運労協 高橋議長
 - 東京平和運動センター 青木議長
 - 東京全労協 寺嶋事務局長
 - 東京地評 松森事務局長
 - 中央労働金庫 渡邊委員長
 - 東京都本部 小池次長
 - 荒川支店 黒木支店長
 - 阿部副代表・女性局長

大会宣言

私たち国鉄労働組合東京地方本部は9月15日、都内発明会館において第69回定期地方大会を開催し、組織強化・拡大をはじめ春闘勝利や労働条件改善の闘い、安心して生活できる社会環境の獲得など、代議員の真摯な議論により方針が補強され一年間の総括と当面する向こう一年間の闘う運動方針を確立した。

多くの代議員が発言したように、組織強化・拡大の闘いは私たちにとって最大の課題であり、先進的な分会の取り組みと成果に学び合うことが求められている。

この一年間、多くの職場で組織拡大に取り組んできた結果、他労組の大量脱退もあったが、〇〇名の組織拡大を勝ち取ることが出来た。各級機関や組合員の努力と成果を全体で確認し、組織拡大の成果を検証していくことが大切である。同時に、組織拡大には至らないが、多くの分会・班で日常的な世話役活動を通じて拡大を目指す運動は確実に職場に浸透している。私たちは一年間の成果と課題を一人ひとりが確認し、さらなる組織拡大に取り組むこととする。

職場では、あらゆる系統で人減らし合理化・効率化が進み、本線運転以外の職種で委託が拡大し安全・安定輸送が脅かされている。これはギリギリの要員の中で働かれ、技術継承も思うように進んでいない中、技術力の低下はあらゆる分野の職種に影響し、輸送関連以外にも拡大している。私たち輸送業務に係る労働組合として安全・安定輸送の確立を優先し、賃金を含む労働条件の改善に取り組まなければならない。

2018年春闘において、貨物会社では19年連続ベアゼロは回避されたものの超低額回答であった。東日本会社では、ベアアップはしたものの低額回答であり実質賃金の目減りは続いている。生活改善には程遠い状況にある中、大幅賃上げなど生活向上に向けた職場・地域からの取り組みの強化が求められている。

安倍内閣は「特定秘密保護法・戦争法・共謀罪法」を強行成立させ戦争が出来る国に突き進んでいる。さらに「働き方改革関連法」を参議院本会議において、強行可決・成立させた。労働基準法の理念である8時間労働制を根底から崩すものであり、断じて認められないものではない。また、法律の中に盛り込まれた「高度プロフェッショナル制度」では限らないみなし労働が懸念されることから、過労死防止に向けた闘いを強めていくことが急務である。秋の自民党総選挙以降、憲法改悪への動きを加速させることが予想される。国会の内外で立憲主義に基づく議会政治と平和憲法に立脚した国民主権の民主主義を取り戻すことに全力を挙げなければならない。

私たちは、引き続き組織の強化・拡大をはじめ、労働条件改善と安全・安定輸送の確立、憲法改悪に反対し平和と民主主義の擁護と確立、安心して暮らせる社会の実現に向け奮闘する。

以上、宣言する。

2018年9月15日
国鉄労働組合東京地方本部
第69回定期地方大会

大会延期承認がされ、石井書記長から経過ならびに今年度方針が提案され、昼食休憩となった。一三時五分の再開後は、組織拡大表彰が行われ、今年度は合わせて五名の加入があった神奈川地区本部と、それぞれ二名の加入があった自動車分会(自動車支部)、武蔵小杉駅分会(神奈川地区本部)、八王子信通技術センター分会(八王子地区本部)が受賞となった。

青山団長(昭島市議)があいさつをおこなった。弁護団報告では、顧問弁護士の鴨田先生、高木先生が見えられ、それぞれから報告をいただいた。

大会延期承認がされ、石井書記長から経過ならびに今年度方針が提案され、昼食休憩となった。一三時五分の再開後は、組織拡大表彰が行われ、今年度は合わせて五名の加入があった神奈川地区本部と、それぞれ二名の加入があった自動車分会(自動車支部)、武蔵小杉駅分会(神奈川地区本部)、八王子信通技術センター分会(八王子地区本部)が受賞となった。

その後、経過に対する質疑が四名の代議員から、方針に対する討論が一五名の代議員からされ、それぞれ、組織拡大や職場労働条件改善に関する取り組みや、平和運動などさまざまな取り組みや上部機関に対する要望などが報告された。続い

て書記長集約がされ、二〇一八年度の闘争方針が確立した。(代議員の発言や書記長集約の要旨は、次号に掲載予定)

また、二〇一八年度予算案の提案では、組合員の減少により、従来のような予算が組めなくなってきたことが報告され、緊縮財政を求める一方、ここでも組織拡大が強く訴えられた。

永年勤続表彰、ストライキに対する一票投票が行われ、ストライキ権が確立、特別決議二本と大会宣言が承認され、最後に鎌田委員長の団結がらばらうで、これからの一年間東京地方本部の全組合員が組織拡大をはじめ、さまざまな取り組みに全力を上げてゆく決意を固めあった。

第69回定期地方大会 執行委員長挨拶

はじめに、最重要課題である組織強化・拡大の取り組みについてです。

地方本部は、組織強化・拡大こそがまさに組織の命運をかけた闘いであり、全ての運動の原動力であることを再確認し、拡大運動を展開してきました。昨年の大会以降、13名の新たな仲間を国労へ迎え入れました。

大きな流れと土台を築くためにも先進的な分会の取り組みの経験に学び合い、教訓などを組織的に検証し合う中から、組織拡大に向けた気運をより強固なものにしていかねばなりません。選択される・共感される労働組合としての私たち国労の運動や取り組み等をより鮮明に示していくことが重要であり、関連会社をはじめとした働く全労働者の組織化を図ることも急務な課題です。

多くの平成採用の青年・女性たちが国労に加入している中で、次世代に国労運動と国労組織を継承・発展させていくためにも、「全ての闘いを組織強化・拡大に集約する」ことの意義を再認識し、拡大運動を精力的に展開する構えをさらに固め合おうではありませんか。

次に、安全・安定輸送の確立と全ての職場労働条件改善の取り組みについてです。

JR発足から31年が経過し、安全・安定輸送を脅かす重大事故とインシデントの多発、大規模な輸送障害などが続発しています。

背景には、利益優先の経営姿勢や企業風土はもとより、コスト削減をはじめ行き過ぎた規制緩和や全系統にわたる業務委託の拡大、機械化・外注化の高度化などが大きく起因し、深刻な事態に直面しています。安全・安定輸送の確立は、公共交通を担う基幹的輸送機関としての社会的使命であるだけに、職場における日々のチェック体制を強めるなど、労働組合の任務と役割を果たしていくことが極めて重要になっています。そのためにも、通年闘争として取り組んできた「安全・仕事総点検運動」を再度、全職場から強化する中で、職場労働条件向上に向け全力を挙げ展開しなければなりません。

次に、安倍反動政治と平和と民主主義の課題についてです。

安倍政権は、今日まで憲法違反である「安全保障関連法」に続き「共謀罪法」を国会内外の反対の声を抹殺し、「数の力」と国家権力を背景に横暴的に強行成立させるなど、議会制民主主義を覆るにいたる暴挙に国民の怒りが広がっています。

さらに憲法改正に向け、国会発議と国民投票実施という動きを急加速させ、憲法9条に自衛隊を明記する意欲と姿勢、改憲への執念を改めて明言するなど、まさに平和憲法が打ち立てた三つの原則である「平和主義」「主権在民」「基本的人権の尊重」をはじめ平和と民主主義が重大な危機を迎えています。私たちは、「武力によらない平和」をめざす広範な勢力、野党共闘の皆さんとの連携を築き、安心・安定した社会の実現と安倍政権退陣に向けた大きなうねりを創り出し、闘い抜くことを地方本部として明らかにしておきたいと思っております。

当面する諸課題の実現に向け国労東京地方本部がその先頭に立ち、全力を挙げていくことを申し上げ、執行委員会を代表しての挨拶といたします。

国労東京野球大会

優勝は中原電車区 (神奈川A)



東京地方本部は、九月一九日に大井スポーツセンター野球場において、第四六回国労東京野球大会準決勝・決勝・三位決定戦を行った。

準決勝神奈川地区本部Aチーム(中原電車区)対大宮地区本部チームの試合は、大宮・藤沢投手、神奈川A・飯山投手の先発で始まった。一回表に横井選手が二・三塁から三遊間ヒットでまず一点をあげたが、すかさず大宮地区本部チームは四球押し出しでまず一点を取ったあと、満塁ホームランで計五点をあげ、流れをつかんだかに見えた。しかし、神奈川Aチームは二遊間ヒットなどで二点を返したあと、数野選手の中越え三塁打でさらに二点をあげ追いつき。さらに投ゴロの間に一点をあげて逆転に成功した。その後は両チームとも決定打が出ず、そのまま六対五で神奈川Aチームが決勝に進出した。

三位決定戦は新橋支部Aチーム対大宮地区本部チームの試合となり、新橋・杉沢投手、大宮・伊藤選手の先発で行われ、新橋Aチームが小刻みに加点して一一対一で勝利し三位となった。

新橋支部Aチーム(電気連合)対神奈川地区本部Bチーム(国府津支部)の試合は新橋A・青木投手、神奈川B・吉田投手の投げ合いで始まった。新橋Aチームは二回裏・三回裏に計六点をあげて試合を決したかに見えたが、神奈川Bチームはその三回裏にライトフライで一塁送球ランナーアウ



優勝・中原電車区チーム

原発廃止を訴えよう

「さようなら原発」一千万署名市民の会(大江健三郎さん、坂本龍一さん、瀬戸内寂聴さん、鎌田慧さんなどが呼び掛け)は、九月一七日に代々木公園において、「一七さようなら原発全国集会」を開催し、全国各地から八〇〇〇人が参加し、国労東京からも多くの組合員が結集し原発廃止を訴えた。

主催者あいさつで、ルポライターの鎌田慧さんは「原発はイヤだ」という声が広がり

つつある。いま、東海原発(茨城県)が焦点。建設から四〇年。それをさらに二〇年延長しようとしている。儲けるため、自分の欲望のために原発を続けている。人道的にも道徳的にも許されない。政権を変えるしかない。同じく主催者あいさつで、作家の澤地久枝さんは「福島は福島の事は何も決めていない。政府は福島の人たちを切り捨て、輸出して、海外で事故が起こっても知らんぷりだろう。東電を訴える裁判は、



最優秀選手・数野選手



ムの中野投手、神奈川B・平野投手の投げ合いで始まった。一回表、一回裏に二点ずつ取り合ったあと、神奈川Aチームは三回裏に満塁から二塁内野安打で一点、さらに三塁内野安打による一点などで均衡を破った。神奈川Bチームも四回表に左中間二塁打で一点、左前ヒットでさらに一点を返した。しかし、神奈川Aチームはその後も小刻みに得点を重ね、一一対四で神奈川Aチームが優勝を飾った。



国労東京審判団

最後に、野球大会の運営に協力いただいた国労東京審判団、各地区本部・支部の皆さんに感謝を申し上げ、来年の熱い戦いを期待したい。

勝たなければならぬ。私たちは原発を許さないという意思表示を続けよう」などの訴えを行った。

その後、さまざまな訴えが続き、福島原発刑事裁判支援団の佐藤和良さんは「刑事裁判の中で、隠していた事が山山明らかになった。想定外だから法的責任は無いと言っていたが、その前に国から改善の指摘を受けていた事が明らかになった。工事費がかかりすぎるからと、経営判断として津波対策を放棄していた。

この裁判で勝つことが、今後の民事裁判でも重要になる」などの報告がされた。結果、渋谷と原宿の街で反原発を市民に訴えた。



これからの医療の進歩を見据え、「生きるためのがん保険」を新しくします。

NEW/ **生きるためのがん保険 Days 1**

アベニール株式会社
〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3階
TEL.03-3437-6810 FAX.03-3437-6822

月払保険料【団体取扱】スタンダードプラン

契約日の満年齢	20歳	30歳	40歳	50歳	60歳
男性	2,493円	3,343円	4,984円	8,057円	13,582円
女性	2,473円	3,434円	5,128円	6,791円	8,451円

2018年4月2日現在

ニーズに合わせて特約をプラス!

- 外見ケア特約
- 緩和療養特約

アベニール株式会社
〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3階
TEL.03-3437-6810 FAX.03-3437-6822

アフラック 東京第二法人営業部
東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル19F
TEL.03-3344-1429 FAX.03-3344-2658